

グループ・ディスカッションの感想

朝比奈 友里

3日目のディスカッション・セッションでは、環境をテーマに意見交換とビジネスプランの考案を行った。準備に当たっては、自主研修中に団で作成した学習冊子から、環境・エネルギー事情の情報や関連する英単語を確認し、それまでに訪れた木材加工関連会社や浮体式LNGターミナル、水力発電所にて伺った話を各自で振り返った上で臨んだ。ただ、当日のテーマはEco-friendly lifestyleで話しやすいテーマであったため、知識が問われるのではなく、自らの日本での生活で感じていることやリトアニアとの現状の違いを具体的にイメージしながら議論することができた。ディスカッションに参加する相手国メンバーは日本への招へい青年だったので、既に様々な形で交流できていたおかげで、和やかで打ち解けた雰囲気でのディスカッションが進んだ。

与えられた質問は「Eco-friendly lifeによって恩恵を受けるのは誰か」「Eco-friendly lifeは何の助けになるのか」というもので、2国間の現況の差異を知ることとなった。例えば、ベジタリアンの割合はリトアニアの方が高いが、ファッションとして取り組む人も多いという話を聞き、身近では聞いたことのない話だったので驚いた。同時に、そうした菜食主義が、フードチェーンや経済圏に

与える影響まで話が及んだことも印象に残っている。リトアニア青年の発想の豊かさに助けられた部分が少なからずあったと思う。国際社会が抱える様々な問題を地球レベルで俯瞰するとともに、地域、個人レベルでの行動に落とし込み日常生活の意思決定判断に反映させていく重要性を認識した。

各々のグループ発表に当たっては、各グループに模造紙や筆記用具が渡されて準備し、それぞれの個性や能力がいかされることとなった。どの班も両国の持つクリエイティビティを発揮できる創造的な案を考えており、互いの意見を尊重しながら対話が進み、傾聴し合えたのが良かったと考えている。共同の手作業でコミュニケーションも密に行われ、達成感を共有できたことで仲も一層深まった。各班の提案を聞くと、問題を自分自身に大きく関わるものとして認識し、行動していくことは、たとえ日本とリトアニア青年の小さな輪からのスタートであっても、広がっていけば大きなうねりになるのだろうと考えさせられた。実りある時間にできたのはリトアニア青年と、ファシリテーター、お世話になった多くの方のお蔭である。腹を割って濃密な議論ができたことは貴重な経験であった。心から感謝している。

